

高等学校第2学年 家庭科（家庭基礎） 学習指導案

1 単元名

「家族・社会との共生 第2章 子どもと共に育つ」（東京書籍）

2 単元について

(1) 単元観

少子化や核家族化が進み、乳幼児との同居や、身近に乳幼児がいる高校生は少ない。子どもと触れ合う体験活動などでは、乳幼児とどのように接したらよいかわからず戸惑ってしまうことも多い。一方で、将来、結婚するかしないか、子どもを持つか持たないかなどの生き方は様々であり、多様な考え方や状況を認めあい、支えあっていく必要がある。自分自身が子どもを持つか持たないかに関わらず、未来を担う子供たちを社会全体で見守るものの必要性に気付き、その取り巻く環境にも常に関心を持つ必要がある。つまり未来の子育ての当事者としての自覚を高めるだけでなく、すべての人の生活、すなわち共生社会の一員としての視点で、これからの自分の在り方・生き方を考えさせていきたい。

これらのことから、共生社会の一員としての視点を持ち、他教科の学びも関連付け、自分の生き方について考えていくことは、未来の創り手となる「豊かな学び」の創造につながるものであると捉える。

(2) 系統観

小学校家庭科 A：家庭生活と家族 (1)自分の成長と家族 (3)家族や近隣の人々とのかかわり	中学校家庭分野 A：家族・家庭と子どもの成長 (3)幼児の生活と家族	高等学校家庭基礎 (1)人の一生と家族・家庭及び福祉 青年期の自立 子どもの発達と保育 高齢期の生活 共生社会と福祉
---	--	---

中学校家庭分野(3)においては、「幼児と触れ合う活動」が設定されている。高等学校家庭基礎の(1)は、青年期→乳幼児期→高齢期領域を学習し、そのまとめとして「共生社会と福祉」に発展していく。

(3) 生徒観（体育コース2年：男子35名、女子2名）

子育て及びその背景となる結婚についての実態は次のとおりである。

①将来の結婚観	一生独身でいる 【0人】	結婚し家庭を創る 【36人】	その他 【0人】
②配偶者に望む仕事の在り方	結婚・出産に関係なく、働き続けてほしい 【6人】	結婚又は出産後、仕事を辞めてほしい。 【10人】	結婚・出産後仕事を辞め、子の成長後再就職 【20人】
③共生社会とはどのような社会と思うか。	・男女が結婚し、協力し合って生活していくこと ・どんなことがあっても共に生き、一緒にいること ・互いに支え合う ・協力し合って生きていくこと		

質問②から、まだまだ子育ての中心は母親という役割分業意識を持っていることが分かる。質問③から、共生社会の概念を、夫婦や家族における支え合いと捉えており、社会全体の視野まで至っていない。

(4) 指導観

- 子育てで悩みを抱える可能性がある母親や父親の立場に立って考えるのはもちろんのこと、グループワークを通して自分の視点にはなかった解決策や配慮があることを実感させるようにする。
- 学習課題を考える際は、常に未来の子育ての当事者としての自覚を高めるだけでなく、共生社会の一員として視点を持たせ、これより自分の在り方・生き方につなげていく。
- 本題材を、最終的には「共生社会と福祉（共生社会の実現）」につなげていくために、保健体育科スポーツ総合演習の「スポーツを通じた社会参画」との教科横断的な学習として進めていく。
- 体育の学びも含め、これまでの学びを振り返り『子どもに関する学習』を学ぶ意義・目的は何か。」学びの意義について考えさせることで、共生社会の一員としての自覚を育みたい。

研究の視1

「見方・考え方」に着目した問いの工夫

- ①保健体育科の見方・考え方の「支える」、家庭科の見方・考え方の「協力・協働」に着目した2教科を貫く「教科横断的な問い」を設定する。
- ②「教科横断的な問い」につながっていく「家庭科の問い」を設定する。

研究の視点2

学びを実感する振り返りの工夫

- ③生徒の主体性を促すために、「今日の授業で学んだこと」「さらに学びたいこと」等、授業内容に合せた振り返りを、1時間の授業毎に設定する。
- ④家庭科の学習内容だけでなく、体育の学びも含め、「『子どもに関する学習』を学ぶ意義・目的は何か。」学びの意義について振り返らせる。

3 単元の目標と評価規準（参考：国立教育政策研究所作成「評価規準の設定例」）

単元の目標	未来を担う子どもたちの発達や取り巻く環境について学び、共生社会の一員としての自己の在り方と果たす役割について考えることができる。		
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
子どもの発達と保育について関心をもち、実践的・体験的な活動を通して自分のこととして学習活動に取り組んでいる。	子どもの発達と保育について、現代の家庭や地域の生活を見つめて課題をみいだし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し表現している。	子どもと適切に関わることができたり、子どもの健やかな発達を支援したりするために必要な技術を身に付けている。	子どもの発達と保育について理解し、家族及び地域や社会の果たす役割を認識するために必要な知識を身に付けている。

4 指導・評価の計画（8時間取扱い 本時2／8）

単元を貫く問い：未来を担う子どもたちの成長と発達に対して、社会の一員として、どのように関わればよいだろうか。

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	2 (本時2時)	1 乳幼児のからだの発達とその特徴について理解する。 2 ケーススタディ(子どもの発達に悩みを持つ友人へのアドバイス)を行う。 (1)個人で考える。 (2)班で協議する。 (3)周囲の配慮の在り方を考える。	【知識・理解】ワークシート 【思考・判断・表現】ワークシート・振り返りシート 【研究の視点1】 ②親としての立場だけでなく、共生社会の一員としての視点を持たせる。 【研究の視点2】 ③「今日の授業で学んだこと」「さらに学びたいこと」等、生徒の主体性を促す振り返りを行う。
二	2	3 乳幼児のこころの発達、生活を学ぶ 4 ロールプレイをとおして、親の態度と子どもへの影響を理解する。	【知識・理解】ワークシート 【思考・判断・表現】ワークシート 【研究の視点2】 ③「今日の授業で学んだこと」「さらに学びたいこと」等、生徒の主体性を促す振り返りを行う。
三	2	5 幼児のことばについて理解し、創作童話づくりを行う。 6 仕事と子育てをめぐる現状を理解し、課題を考える。	【関心・意欲・態度】 【技能】作品（創作童話） 【知識・理解】 【思考・判断・表現】ワークシート 【研究の視点2】 ③「今日の授業で学んだこと」「さらに学びたいこと」等、生徒の主体性を促す振り返りを行う。
四	2	7 体育の授業で実施した「幼児との交流会」を振り返る。 8 体育の学びも含め、これまでの学びを振り返り『子どもに関する学習』を学ぶ意義・目的は何か。」学びの意義について考える。	【知識・理解】ワークシート 【思考・判断・表現】グループ協議シート 【研究の視点1・2】 ①④体育の学びも含め、これまでの学びを振り返り「『子どもに関する学習』を学ぶ意義・目的は何か。」学習全体を振り返り、学びの意義について考える。

5 本時の学習

(1) 目標

乳幼児のからだの成長と発達について学び、共生社会の一員として、自分の為すべきことを考えることができる。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 5分	1 本時の目標（めあて）を確認する。 学習課題（問い）	○前時行ったアンケート結果について触れ、子どもについて学ぶことを確認し、本時の学習内容に対する意識を高める。	
子どもの健やかな成長と発達のために、保育者としてどのように関わればよいだろうか			
展開 35分	(1) 自分なりの考えを持つ。 （ワークシートへ記入する） 2 乳幼児のからだの発達について学ぶ（赤ちゃん&幼児クイズに挑戦！） 3 ケーススタディを行う (1) 自分なりの考えをもつ。 (2) グループで意見を出し合い、互いの考えを交流する。 (3) グループの意見を発表し、全体で共有する。 【言語活動】（設定の意図） ケーススタディを行うことで、自分の事として受け止め、真に相手の立場に立っているか判断させる。	【研究の視点1】 ②「教科横断的な問い」につながる学習課題を提示する。 ○自分が幼児だったころの家族や周囲の大人の対応を思いだし、自分なりの考えを持たせる。 ○教科書に記載されている発達状況は、あくまで標準であること、発達には個人差があることを伝える。 【ケーススタディ】 1歳になったばかりの子どもを持つ友人がいます。その友人から、「周りの同じくらいの赤ちゃんは、1人で歩くことができるのに、うちは“伝い歩き”がやっとなんか心配・・・」と相談を受けました。何と言って、アドバイスしますか。 ○ワークシートに意見をできるだけ多く記入させる。 ○グループから出た意見を全体で共有する。 予想される答え：病院に行く方がいい、個人差があるから大丈夫 など	ワークシート モニター DVD ケーススタディシート
整理 10分	5 学習したことを振り返る。 (1) 本日の学習で学んだことを記入する (2) 互いの感想を交流する (3) 今後学びたいことについて記入する	○自分たちが考えた意見が、真に相手の立場に立ったものであるのか、正しい情報であるのかを考えさせる。 【研究の視点1】 ②本時の学習課題をもう一度考えさせる。 ○ケーススタディを振り返り、育児上起こりうる問題への知識・理解が必要であること、周囲の人々のあり方、配慮のしかたについて気付かせる。 ○1(1)での自分の考えと比較させ、「共生社会の一員」がどのような立場であるのかを考えるように伝える。 【研究の視点1】 ①「教科横断的な問い」に近づく視点から説明補足する。 評価：思考・判断・表現（ノート・観察） B基準 保育者の立場で、子どもに関わるために、自分に必要な行動を考えることができる。 A基準 B基準に加え、社会全体の視点で自分の為すべきことを考えることができる。 <B基準に達していない児童（生徒）への手立て> ○乳幼児の成長と周囲の関わりについて触れる。 【研究の視点2】 ③生徒の主体性を促すために、「今日の授業で学習したこと」「さらに学びたいこと」を確認する。	